

I スクール・ミッションと3つのスクール・ポリシー

<スクール・ミッション>

体験的なキャリア教育を通して幅広い教養と豊かな情操を養い、グローバル化が進展する社会の中で自ら課題を設定して解決に導く力を伸ばし、何事にも高い志をもってチャレンジする精神を育むとともに、日本の文化や歴史を理解し、他者を尊重して国際社会でたくましく生き抜く人材を育成します。

<グラデュエーション・ポリシー>

心身ともに健康でくじけぬ心とたくましい体を育み、高い知性と豊かな情操を身に付け、自律・互敬の精神をもって他者と協働して社会をたくましく生き抜く力を磨きます。また、探究心と知的好奇心にあふれ、自ら考え、学びに向かう力を活かして、グローバルかつ多角的、多面的に物事を捉え、自ら課題を設定して解決し、未来を自ら切り拓くことができる人材を育成します。

<カリキュラム・ポリシー>

2年次までは、一人一人が、自らの将来を展望し、青年期にふさわしい広く深い知識に裏付けられた教養を主体的に身に付けて人生を豊かなものとするために、学問分野を限定せず、すべての教科をバランスよく学びます。3年次では、多様化する大学入試への対応と、個々の進路希望の具現化を目指して数多くの選択科目から、個々の進路希望に応じた教科・科目を選択して、集中的に効率よく学びます。

<アドミッション・ポリシー>

生徒一人一人が確かな学力と心身ともに健康な体力を身に付けるために、教科学習だけでなく、学校行事や部活動も盛んに行われています。そのため、本校を志望する生徒には、次の条件を満たし、さらに発展させる推進力と熱意を求めます。

- ① 学習意欲に富み、十分な学習成果を上げている生徒
- ② 将来の進学に対する目的意識が明確で、向上心をもって自ら進路を切り開こうとする生徒
- ③ 生徒会活動や部活動、学校行事等にも積極的に参加・貢献し、入学後もこれらの活動に参加・貢献しようとする生徒

II 中期的目標と方策

<目 標>

- 1 知ることの喜びや探究する方法を学び、知的好奇心を弾みに主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、一人1台端末の授業での活用を推進し深い学びの実現を目指す。
- 2 組織的な進路指導を行いより高い目標の実現を目指すとともに、国内のみならず国外も視野に入れた進学実績を向上させる。
- 3 特別活動への取組を通して豊かな人間性や資質を育み、自主性や他者への貢献の心を涵養する。
- 4 凡事徹底を実践し、社会人として通用する規範意識の確立を図るとともに、安全・安心な学校生活を送れる環境を整備する。
- 5 心身共に健康な生活を送れるよう健康保持や体づくりを進めるとともに、相談できる体制を充実する。
- 6 東京都から指定された「Tokyo Metropolitan Global Education Network School Premier 20」(以下GE-NET20)事業を推進しグローバル人材育成教育を進め、多様性を尊重し共生社会の実現に向けて貢献できる人材の育成に努める。
- 7 教育内容や教育活動の成果などを発信し、広く都民に信頼される学校づくりを進める。
- 8 全教職員が課題を共有し、「チームムサキタ」で丸となり協力して課題解決に取り組むとともに、各分掌における効率的な校務運営に取り組む。

<方 策>

- 1 探究的な学びを推進し考え抜く力や知識や技能を活用する力を育成し、生徒が主体的に学ぼうとする姿勢を養うとともに、一人1台端末の授業での活用をより推進する。また「個別最適な学び」

に向けての有効活用を研究、実践する。

- 2 進路指導部主導の計画的、継続的、組織的な進路指導を教職員全員で実施し目標の早期設定や高い志の維持等を図るとともに、データ分析、定点観測及び国内外の大学進学情報を提供し生徒の進路希望実現に取り組む。
- 3 部活動や学校行事において、努力することの大切さや達成感を体感させ、仲間への連帯感や学校への帰属意識を育成する。
- 4 あらゆる機会を通して、社会人として通用するマナーを身に付けさせるとともに、学習環境等の整美に努める。
- 5 保健指導等を通して心身の健康管理の意識を高めるとともに、生徒・保護者の相談体制を整える。
- 6 GE-NET20 事業の推進により「使える英語」「豊かな国際感覚の醸成」「日本人としての自覚と誇りの涵養」を身に付けさせ、グローバル人材を育成する。
- 7 保護者・地域及び中学校等に対してホームページ等を通して教育活動を積極的に情報発信し、募集対策の充実を図る。
- 8 ICTを活用するなどして、企画調整会議を核に学年会、分掌部会、経営企画室との情報の確実な共有により「チームムサキタ」で教職員が一丸となり組織的な校務運営に努める。

Ⅲ 今年度の目標と方策

1 学習指導

<目 標>

生徒の高い学力の定着と探究的な学びの充実

<方 策>

- (1) 授業での学習のねらいの明示、知識・技能を活用して探究する場面の設定、話し合いや発表活動により、生徒の主体的な学びを実現するとともに、オンライン教育を活用し生徒の学びを保証する。
- (2) 統合型学習支援システム等のデジタル技術を活用した授業改善に取り組み、生徒の学習状況に応じたきめ細やかな学習指導を行い、難関大学に果敢にチャレンジできる学力と自信を身に付けさせる。
- (3) 探究支援部を中心とし組織的に「総合的な探究の時間」の充実を図る。東京農工大学、東京学芸大学、東京都立大学等との高大連携により、生徒の探究的な学びを一層充実させデータ分析力、論理的思考力、プレゼンテーション力等の向上を図る。
- (4) 外部予備校による教員研修を活用して、教員の授業力及び受験指導力の強化を図る。
- (5) 年に2回以上の教員相互の授業見学や「生徒による授業評価」の活用により、教員個々の授業力向上と教科指導力の向上を図るとともに、授業改善に向けた校内研修を実施する。
- (6) 考査・実力テスト、外部模試や授業評価を基に教科としての課題を明確にし、補習・講習を組織的に実施する。
- (7) 大学入試に関する最新情報を常に意識して研究・開発を行うとともに、大学入学共通テストの昨年実績を分析し、学習指導に反映させる。
- (8) 生徒の知的好奇心を醸成するために、図書貸し出し数、図書館利用率を高め、読書活動を推進する。
- (9) 教職員のライフ・ワーク・バランスに配慮しながら自習室や廊下の学習機の適切な活用を推進し、自学自習を定着させる。

2 進路指導

<目 標>

「進学指導推進校」として、高い志をもたせる指導の充実とさらなるステップアップ

<方 策>

- (1) 進路指導部が作成した3年間の進路指導計画・面談計画、キャリアプランに基づく組織的、

- 系統的な指導を進路指導部と学年、教科の密な連携のもと推進し、生徒の高い志を育成する。
- (2) 6教科8科目以上の共通テスト受験率を高め、生徒が第一志望にチャレンジできるよう3年間を見据えた進路指導体制を確立する。
 - (3) 年3回以上の個別面談、うち1回は三者面談の実施により「進路を自ら考え、選択できる力」を育成するとともに、保護者と連携し生徒一人一人に応じたきめ細かい進路指導を行う。
 - (4) 迅速なデータ検証を基にした模試分析会・ケース会議を早期に実施し文系・理系ともに進路先を開拓するとともに、個に応じた教科指導の改善、指導に反映させる。
 - (5) 進路講演会、訪問授業、大学訪問等をタイムリーに実施し、進路実現に向けた生徒の内発的動機付けを促す。
 - (6) 教科毎に、組織的な長期休業中の講習を実施し、生徒の軸足を学校に置いた指導を行う。また、東京都による民間事業者を活用した学力向上支援を受け、予備校と連携した講習も行う。
 - (7) スプリングセミナー、オータムセミナー等での体験学習を通して視野を広げ、夢に向かって自分のやるべきことを考えさせる。

3 特別活動・部活動

<目 標>

学校行事、部活動の活性化により多様な人と共に、目標に向けて協力する力の育成

<方 策>

- (1) 学校行事への取組を通して、生徒の自主的、主体的な活動を推進する。
- (2) 東京都の部活動ガイドラインにある週に2日の休養日設定や活動時間等を遵守した部活動に係る活動方針を明確にし、学習活動と部活動の高度な両立を図る。
- (3) 体罰や不適切な指導等の服務上の課題とは無縁な指導を徹底し、生徒の人権を尊重した部活動を運営する。
- (4) 部活動指導員及び外部指導員を活用し、部活動指導の効率的なシステムを整備する。

4 生活指導

<目 標>

社会人としての規範意識の涵養

<方 策>

- (1) あらゆる機会を通じて「時を守り、場を清め、礼を正す」ことを指導し、社会人として通用するマナー、ルールを身に付けさせる。
- (2) 自転車の交通ルール・マナー指導を徹底するとともに、危険回避能力を育成する。自転車運転時のヘルメット着用を推進する。
- (3) 良好な人間関係を築く基礎となるコミュニケーション能力を向上させるとともに、挨拶を自分から進んでできる生徒を育成する。
- (4) 学習等に落ち着いて取り組める現在の環境を維持するために、教室内の整理整頓、貴重品の管理及び美化活動を定着・習慣化し、安全・安心な学校という校風を堅持する。
- (5) 服務事故の根絶、いじめの未然防止、早期発見・対応を行う。また、いじめに関する授業や研修にも取り組んでいく。

5 保健・相談活動

<目 標>

個々の生徒に配慮した教育活動

<方 策>

- (1) SOSの出し方に関する教育を推進し、生徒の健全育成を図るとともに、相談先の周知も積極的に行う。
- (2) 不登校等の未然防止と早期支援の体制を強化し、小さいサインからの把握を目指す。
- (3) スクールカウンセラーと連携した教育相談体制の充実及び、教育相談委員会の定期的な開催

や校内研修により生徒情報を共有し、特別支援教育における認識を高め、特別な支援を必要とする生徒への指導を充実させる。

- (4) 防災教育、避難訓練を地域と連携して計画的に実施し、生徒の健康や安全に対する意識の向上を図り、「自助」「共助」の実行力を養う。
- (5) 薬物乱用防止やセーフティ教室等を通して、心身共に健全な生徒の育成を図る。
- (6) 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考に保健体育や家庭科の授業、部活動等とおして、体力向上と食育の充実に努める。

6 グローバル人材育成教育

<目 標>

系統的・計画的なグローバル人材育成教育の推進

<方 策>

- (1) 探究支援部を中心にGE-NET20事業を組織的に推進し、「使える英語」「豊かな国際感覚の醸成」「日本人としての自覚と誇りの涵養」を身に付けさせ、グローバル人材を育成する。オンライン英会話、語学研修、英語プレゼンテーションコンテスト、海外修学旅行、国際交流などを系統的に実施する。
- (2) ALTやJETの活用及び外部検定試験の実施等により、英語4技能を一層伸長させ、グローバル人材育成教育を推進する。
- (3) 「子供のための伝統文化・芸能体験事業」等を活用し、日本の伝統文化の良さを理解し発信できる生徒、互いの文化を尊重した交流ができる生徒を育成する。

7 募集・広報活動

<目 標>

積極的な情報発信

<方 策>

- (1) ホームページの迅速な更新等を通して日常の教育活動を適時に情報発信する。
- (2) 学校案内について検討し、生徒募集力の強化を図る。
- (3) 近隣地域との交流を積極的に行い、本校の特色をPRするとともに、存在感を高める。
- (4) 募集・広報活動を全員体制で組織的に展開し、校内・校外における学校説明会、中学校・塾訪問、学校見学会、授業公開、個別相談会等について積極的に実施する。

8 学校経営・組織体制・経営企画室運営・施設設備管理

<目 標>

経営参画意識と協働意識の醸成及び適切な予算編成執行と教育環境の整備

<方 策>

- (1) 企画調整会議、職員会議等、各会議の運営改善及び業務の効率化を図る。
- (2) 主幹教諭、指導教諭、主任教諭、教諭が職責を果たしスクール・ミッションの実現を図る。
- (3) 教育課程の確実な実施に向け、各教科・科目の到達目標、評価規準等の細部を明確に定め、カリキュラムマネジメントを構築する。
- (4) 教育課程を見直すとともに、生徒の科目選択についても見直すことで、効果的な教育効果を上げることを目指す。
- (5) 若手教職員の育成、中堅教員の指導力向上に向け、各職層のベテラン教員の経験を活かした職場内でのOJTや教員相互の授業見学等の学び合う機会を増やし、教職員の育成を図る。また、校内研修を計画的に行い、教職員の資質向上を図る。
- (6) 校内イントラ等を活用し、ペーパーレス化の推進を図り、迅速な情報共有を行う。
- (7) 組織的かつ効率的な業務の遂行、デジタル技術の活用、積極的な業務縮減への取組により、教職員のライフ・ワーク・バランスの推進を図る。また、各自の働き方に合わせて、教職員が少なくとも月に1回は定時退庁し在校等時間の縮減を図る。

- (8) 執務環境の整理整頓、クリーンデスクに取り組み、日頃から個人情報保護を徹底するとともに、ミスを事故にしない組織的な業務運営を行い、服務事故を未然に防止する。体罰・不適切な指導やハラスメント等の服務上の課題とは無縁な教育を行う。
- (9) 経営企画室の業務進行管理と合理化を徹底し、経営参画型の経営企画室として機能させる。
- (10) 自律経営推進予算の執行状況について、四半期毎の資料を提示し適正管理するとともに、費用対効果やコスト意識をもった予算執行・要望のあり方を全教職員に定着させる。
- (11) 一般需用費のセンター執行を適切に行う。
- (12) 施設設備の安全管理及び修繕の早期発見、即時対応を推進する。

IV 今年度の重点目標（数値目標）

1 学習・進学指導の充実

- (1) 授業満足度 80%以上
(R7実績74%・R6実績82%・R5実績81%)
- (2) 6教科8科目以上の共通テスト受験率 50%以上
(R7実績43%・R6実績48%・R5実績48%)
- (3) 国公立大学合格者 60名以上
(R7実績62名・R6実績60名・R5実績56名)
- (4) 早慶上理合格者 65名以上
(R7実績61名・R6実績83名・R5実績68名) ※ 延べ数
- (5) GMARCH合格者 260名以上
(R7実績251名・R6実績307名・R5実績297名) ※ 延べ数
- (6) 授業以外の学習時間 1学年：2時間以上 2学年：3時間以上
(R7実績 1学年：1時間30分 2学年：2時間30分)
(R6実績 1学年：1時間30分 2学年：2時間18分)
(R5実績 1学年：1時間30分 2学年：2時間 6分)

2 部活動・特別活動の推進

- (1) 学校満足度 90%以上
(R7実績86%・R6実績93%・R5実績90%)
- (2) 行事満足度 90%以上
(R7実績85%・R6実績93%・R5実績94%)
- (3) 部活動加入率 95%以上
(R7実績107%・R6実績103%・R5実績101%)

3 グローバル人材育成教育の推進

- (1) グローバル人材育成教育（国際理解教育）満足度 75%以上
(R7実績74%・R6実績77%・R5実績71%)

4 学校広報活動の充実

- (1) 学校説明会参加者数 1500名以上
(R7実績2034名・R6実績1314名・R5実績1327名)
- (2) 中学校・塾訪問数 250校以上
(R7実績251校・R6実績294校・R5実績251校)
- (3) 入学選抜最終応募倍率（推薦）2.10倍以上／（一般）1.40倍以上
(R7実績2.27倍／1.49倍・R6実績1.69倍／1.37倍・R5実績2.04倍／1.35倍)

5 適切な予算執行と教育環境の整備

- (1) 一般需用費のセンター執行割合 50%以上
(R7実績59.2%・R6実績61.2%・R5実績57.6%)